

広報

やまと

9月号

2013 No.229

村民 村が主役の づくり

特集① 伊集院村政2期目のスタート!



特集② 第22回ひらとみ祭り開催!

ひらとみ祭り舟漕ぎ競争 (思勝港)

伊集院村政二期目のスタート！

所信表明
七つの約束

「村民が主役の村づくり」

9月10日から伊集院村政の二期目がスタートしました。「行政は村民の立場に立って村興しに取り組まなければならない」という理念の下、一期目の成果と課題を総括し二期目の主要施策として七つの公約を掲げました。9月12日に開催された大和村議会定例会会議での伊集院村長の所信表明を原文のまま掲載いたします。

私は、去る9月10日付けで、第31代大和村長に就任致しました。就任後、最初の村議会の開会にあたり、村長としての所信を申し上げます。

私は、この度の任期満了に伴う大和村長選挙におきまして、多くの村民の皆様のご支援、ご支持を頂き、無投票で再選という栄誉を与えていただきましたことは、誠に光栄であり、感謝に堪えない次第でございます。心から感謝を申し上げます。

今回の無投票再選という結果に対しましては、村民からの負託を受け、責任感と使命感を強く受け止め、身の引き締まる思いであります。これからの4年間に、おきまして、初心を忘れることなく、

大和村の歴史と伝統を守りながら、村民の福祉の向上と、大和村の更なる発展のため、全力で取り組んで参る覚悟でございます。

また、村政運営の基本と致しましては、一期目に引き続き「**行政は、村民の立場に立って村興しに取り組まなければならない**」との理念の下で進めていく考えであります。村の現状は、少子高齢化・人口減少に歯止めがかからない状況の中、課題山積ではありますが、私は、議会の皆様や多くの村民の皆様方と、諸々の課題解決に、様々な角度から議論を重ね、ご協力を頂きながら、行政を推進して参る所存でございます。何とぞご理解頂きますようお願い申し上げます。

それでは私が、二期目に向けて村民に訴えて参りました「公約」の主たる概要につきまして、ご説明申し上げます。

1 点目は、「行財政改革の推進」であります。

本村の歳入の55%以上を占める、普通交付税の伸びは、今後厳しい状況が予想されるため、引き続き適正な予算執行に努め、国の制度を効率的に活用し、高率補助事業の導入等による歳入の確保や、できる限りの歳出削減を図り、健全財政の確立に努めて参ります。

また、行政改革を推進し、開かれた行政の確立とともに住民福祉の向上に努めます。

2 点目は、「農林水産業の振興と販路の確立による村の活性化対策」であります。

本村の活性化は、やはり第1次産業の振興が第1であるとの考えから、その振興を図るために、次のことに取り組みます。

その一つ目に、1期目に引き続き、二期目もトップセールスを積極的に、交流自治体との連携により、販路の確立を目指します。

二つ目に、大和まほろば館を活用した特産品開発や商品化をさらに進めるとともに、積極的な情報発信を行い、果樹の村としての直売市場を目指します。

7 点目は、「自然と共存する村づくり」であります。

その一つ目に、村の自然と景勝地を活かした観光振興を図ります。

二つ目に、世界自然遺産登録に向けた自然観光体験施設として、奄美フォレストポリスの整備充実について、国・県と連携し促進します。また、観光客の増加に対応するため、村内の史跡巡り等の観光ルートの確立を推進します。

以上、村政に対する所信の一端とその概要を述べさせて頂きました。私が、1期4年間で取り組んで来たことを含めて、実現できなかったことは、更に継続して取り組んで参りたいと思っております。

村政運営に当たっては、議会の皆様を始め村民の皆様方の御理解と御協力の下で進めていくことが大事であると考えております。更には、全職員一丸となって「**村民が主役の村づくり**」の実現を目指し、村民福祉の向上のために、全身全霊で村政運営に邁進していくことをお約束いたします。

最後になりましたが、村民の代表であります議会議員の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。私の所信表明といたします。



9月10日に行われた大和村長就任式から

三つ目に、今年度、毛陣地区に確保いたしました、実証農園を活用し、体験農園の実施や果樹の村のPRを推進し、村外からの交流人口の増加による村の活性化に努めます。

四つ目に、地産地消の推進を図り、名瀬中央青果市場への集出荷を継続実施し、農家の生産意欲と所得の向上に努めます。

3 点目は、「企業誘致と定住促進対策の拡充」であります。

その一つ目に、現在の村内誘致企業への協力体制の充実とともに、新たな企業誘致への取組を行い、雇用創出による定

住促進を図ります。

二つ目に、現在の新築住宅助成金20万円を、100万円に増額いたします。

三つ目に、公営住宅、空き家改修や定住促進住宅を計画的に実施します。

四つ目に、村が確保した住宅用地へ、民間のアパート建設の誘致を促進します。

五つ目に、村の人口減少対策として、婚活に対する支援を積極的に行います。

4 点目は、「子育て支援の推進」であります。

現在実施している、子育て支援策である、出産祝い金・育児助成金・乳幼児医

5 点目は、「道路交通網、情報通信網、生活環境の整備促進」であります。

その一つ目に、本村の生命道路とも言える主要地方道・名瀬瀬戸内線 国直・根瀬部間のトンネル化の早期着工について、関係機関への要請活動を強力に推進いたします。

二つ目に、村道整備の促進を図ります。

三つ目に、企業誘致での環境整備のため、村内で光ファイバー高速通信の整備要望を行います。

四つ目に、東部・中部地区における生活環境の整備促進を図ります。

6 点目は、「安全、安心な村づくり」であります。

その一つ目に、村民が安心して暮らせる村づくりのため、医療・福祉の充実を図り、特に高齢者の介護予防など健康づくりを推進します。また、地域防災計画等の見直しを行い防災体制を強化し、災害に強い村づくりを進めます。

二つ目に、防災機能を高めるため、老朽化による村内の集落道の再整備を図ります。

三つ目に、防災・減災対策として、避難所や県道の代替え道路の整備を図ります。



本村農林水産業の柱・スモモ



大和保育所の子どもたちによるダンス

ひらとみ祭り



開饒（ひらとみ）神社でのサトウキビ豊年祈願祭

大和村最大のイベント「第22回ひらとみ祭り」（同実行委員会主催・川下光実行委員長）が8月31日（土曜日）、思勝港一帯で開催されました。当日は台風一過の晴天のもと、村内外から多くの人が来場。伝統の舟漕ぎ競争やステージショー、花火大会などで盛り上がり、会場は終日歓声に包まれました。

祭りは製糖業の祖、直川智（すなおかわち）を祀る「開饒（ひらとみ）神社」での豊年祈願祭でスタート。実行委員や製糖業関係者がサトウキビの豊作を祈願して玉串を捧げました（写真下段）。伝統の舟漕ぎ競争（次ページ）では、ハイレベルの熱戦で盛り上がった他、ステージショーでは大和保育所の子供たちによるダンス（写真上段）を皮切りにフラダンスや阿波踊り、シマウタ、ライブ、お楽しみ抽選会と多彩なプログラムで会場を沸かせました。祭りのフィナーレは夜空を彩る花火大会。人々は過ぎゆく夏を惜しむようにテンポ良く上がる2000発の花火を楽しみました。



シマツチュが熱くなる舟漕ぎシーズン最終戦

ひらとみ祭り 舟漕ぎ競争



ひらとみ祭り舟漕ぎ競争でアベック優勝を果たした奄美病院チームのみなさんが大和村に車イスを寄贈いたしました。両チームはひらとみ祭りに毎年参加し大会を盛り上げています。来年以降の参加を心からお待ちしています。なお、贈呈された車イスは役場庁舎の来客用として大切に使用させていただきます。奄美病院チームのみなさん本当にありがとうございました。

男女アベック優勝

奄美病院ドリームII

奄美病院なの。



(上) メラベの部決勝戦結果発表の瞬間
(下) エンガの部優勝のビクトリーラン



舟漕ぎ競争は夏祭りのメインイベントとして島内各地で開催される奄美大島の伝統競技。シーズン最後の大会となるひらとみ祭りは例年強豪チームが集いハイレベルの争いが繰り広げられます。今年も村内外から男女合わせて84チームが参加。力強いヨホ（櫂）さばきで白熱したレースが展開されました。会場ではチジンを打ち鳴らして応援する姿が見られ、特に地元チームには一段と大きな声援が上がりました。大会はエンガの部（男子の部）では「奄美病院ドリームII」が4連覇を達成、メラベの部（女子の部）では「奄美病院なの。」が2年ぶりの優勝を果たし、奄美病院チームのアベック優勝となりました。舟漕ぎ競争の結果は次のとおり。

- エンガの部
 - ①奄美病院ドリームII ②仲勝壮年団
 - ③実組 ④小湊舟勝負隊
- メラベの部
 - ①奄美病院なの。 ②ふうだなあまんぎやらず ③なうしこ ④みつちゃんむっちゃん
 - 集落対抗エンガの部
 - ①湯湾釜 ②大金久 ③大和浜
 - 集落対抗メラベの部
 - ①大和浜 ②国直 ③大柵



夜空を彩る
若者たちの
責任と誇り

プライベートの時間を犠牲にしての毎日の準備作業は苦勞もありましたが、「ひらとみ祭りの成功」という同じ目標に向かって同世代の若者だけで取り組む機会はなかなかありません。貴重な体験をすることによって互いの連帯感や信頼関係、協力関係がより強くなっていくのをひしひしと感じました。ひらとみ祭りを企画・運営することは、将来の大和村を担う私たち大和村連合青年団にとっても仲間との連携を図る、なくてはならないイベントとなっております。

残念ながら現在の青年団員数は第1回ひらとみ祭り開催当初より大きく減少しています。しかし、先輩方が祭りを企画した当初の「ワキャが興そう、ワキャ生まれジマ！」(自分たちの生まれ育った故郷を自分たちの手で興そう)との思いは、第22回を迎えた今も青年団一人ひとりに脈々と受け継がれています。

ひらとみ祭りは連合青年団の力だけでなく、多くの皆様方からの温かいご支援、ご協力を賜ることで開催することができています。私たち青年団は諸先輩方から受け継いだひらとみ祭りへの『責任』と『誇り』を胸に刻み、ひらとみ祭りの運営という活動を通じて得た力を地域みなさんにお返しし、ひいては大和村の発展のために役立てていきたいと思えます。



「ワキャが興そう、ワキャ生まれジマ！」



①祭り終了後に全員での記念撮影 ②舟漕ぎ競争は海上でずぶぬれでの作業 ③ステージではあまみFMパーソナリティとともに司会進行 ④炎天下の中女性スタッフも奮闘 ⑤祭りのフィナーレを飾る花火大会

8月31日に開催しました「第22回ひらとみ祭り」は大盛況のうちに終了することができました。ご来場いただきました皆様は大和村連合青年団一同、深く感謝申し上げます。

私たち大和村連合青年団は少人数ながら活発に話し合いを重ね、より多くの方に祭りを楽しんでもらいたけるよう、舟こぎ競争やステージの内容について計画を立てて参りました。また、青年団一人ひとりが自分の役割を認識できるようにこれまでの運営方法を見直し、新たな体制づくりも実施しました。これによって各集落団長や団員同士の連絡体制の強化はもとより、新たな若者の参加など思わぬ効果が現れたのは嬉しい出来事でした。

お礼

ひらとみ祭り実行委員会委員長
(大和村連合青年団団長)

川下 光



ゆりむんで自分だけの風鈴を作ろう！

夏休み子どもネイチャークラフト教室

ゆりむんで風鈴を作ろうと題し、奄美野生生物保護センターと奄美自然体験活動推進協議会により同センターで夏休み子どもネイチャークラフト教室が開催されました。

「ゆりむん」とは方言で海岸漂着物のこと(寄り物)。以前は薪木や生活用品等に利用するために集落民が競って拾い集めていましたが現在では清掃作業で収集される厄介者に。そんな、ゆりむんで自分だけの風鈴作りに挑戦しました。

参加者は、まず大和浜の海岸でビーチコーミング(材料収集)へ。海岸には大小様々なサンゴのかけらから貝殻、シーグラス(角の取れたガラス片)流木、浮き、プラスチック等多通散乱していました。子供たちは歓声を上げながら材料を”物色”。お気に入りの品を持ち帰りました。また、合わせて海岸清掃も実施。袋いっぱい漂着ゴミを持ち帰りました。

センターではさっそく台木となる流木にタコ糸でサ

ンゴや貝殻、シーグラスを順番に繋げていきました。同じサンゴでも大きさやつるし方、間隔でぶつかり合う音が異なり子どもたちは興味津々。

出来上がった風鈴は形や音色も様々で個性的。世界に一つだけの風鈴は「カラン、コロン」といつまでも夏の思い出を奏でることでしょう。



花壇で教室を涼しくしませんか？

大和村子ども議会を開催

将来の大和村を担う子供達に行政や議会の仕組みを知ってもらおうと、大和村子ども議会が8月5日、大和村議会本会議場にて開催されました。子ども議会は村内の小学5,6年生の中から選ばれた8名の「議員」が日頃から感じている身の回りのことや大和村の将来について質問を行うもの。子供達は議場の雰囲気や臆することなく堂々と意見を述べ行政への提案を行いました。

「教室には2台の扇風機がありますが夏は暑くて授業に集中できません。屋上に花壇を作るなど環境に優しい方法で涼しくできないでしょうか」(池田玲那さん・大和小6年)といった学校での切実な声から「大和村には豊かな自然やおいしいスモモやタンカンなど自慢がたくさんあります。もっと大勢の人に大和村の良さをわかってもらうためにイメージキャラクターを作ってPRすべきだと思います」(徳島千聖さん・大和小6年)といった思わずうなずいてしまう的を得た

質問がありました。

子ども議会終了後には泉有智教育長が「児童の皆さんは自分の目標を明確に持って頑張ることが大事です。そしてみんなで大和村を作っていきましょう。」と子供達を激励。子供達の豊かな感受性と故郷を誇りに思う声に村当局が刺激を受けた様に感じました。



シシ肉を食べてウミガメについて学ぶ

ウミガメミーティング in 国直

奄美海洋生物研究会(興克樹会長)主催による第10回奄美大島ウミガメミーティングが8月10日、国直集落で開催されました。当日は夏休みの週末と言うこともあり、親子連れを中心に村内外から150人が参加。興会長の説明や子ガメのふ化を熱心に観察しました。

ミーティング前半は国直公民館でウミガメの生態や奄美大島における調査結果を報告。会では「シシを食べながらシシ食害を考える」のサブタイトルの通り、村内で捕獲されたリュウキュウイノシシの肉が振る舞われ、参加者達はシシ肉を味わいながらウミガメの卵のリュウキュウイノシシによる捕食について理解を深めました。

ミーティング後半は国直海岸へ移動し子ガメのふ化を観察しました。8時10分頃に砂の中から顔を出した2,3頭の子ガメはじっと動かずまるで小石に擬態した様子。子ガメ達は静止と行動を繰り返す「同調

と呼ばれる集団行動で次々と脱出していきました。子ガメのふ化を初めて目にする参加者も多く、砂をかき分ける子ガメの様子や横転して起きあがろうとする子ガメに「がんばれー」と応援しながらの観察でした。

ウミガメを観察する際は、体に触れたりライトを直接に照射しないようルールを守って見学しましょう。



離島のハンデを吹き飛ばせ！

大和中水泳部が県大会での活躍を報告

7月23,24日に鹿児島市鴨池公園水泳プールで行われた2013年度鹿児島県中学校総合体育大会水泳競技に出場した大和中の生徒のみなさんが役場へ来庁し伊集院村長に大会結果を報告しました。

大会は男子100メートル平泳ぎで長田虎太郎選手(3年)が1分7秒25で優勝。長田選手は全国中学校水泳競技大会参加標準記録(1分7秒89)を突破し全国大会出場を決めました。また、男子メドレーリレー400メートルでは賀川航太選手(2年)、長田虎太郎選手(3年)、林聖蓮選手(3年)、福山勇成選手(2年)のメンバーが2位入賞を果たし九州大会への切符を手に入れました。なお、学校対抗の部においても大和中は6位に入賞。大規模校に混じって離島のハンデを感じさせない活躍ぶりでした。

大和中水泳部は部員11人の少人数で活動し、日頃から水泳の練習だけでなく様々なボランティア活動に

も積極的に取り組んでいます。

報告を受けた伊集院村長は「みなさんの頑張りは村の人々に勇気と感動を与えました。私も水泳部員でしたのでトレーニングの辛さは身をもって知っています。九州大会ではコンマ1秒でもタイムが伸びるようがんばってください」と激励しました。



いつも笑顔で。いつまでもお元気で

村内の敬老者300名に敬老記念品を贈呈

敬老の日を前に、9月13日に伊集院村長が各集落を訪れ村内の高齢者に敬老記念品と敬老年金の贈呈を行いました。

大和村では高齢者の長寿を祝福することを目的として70歳以上の高齢者492名に敬老記念品を、75歳以上の高齢者368名に年齢に応じて敬老年金を支給しています（最高12万円！）。

国直集落では伊集院村長が「現在の和村があるのはみなさんの頑張りのおかげです。これからも元気で長生きして充実した生活を送って下さい」とあいさつ。敬老者からは代表の農原光雄さんが「生きているだけでお祝いがいただけるのは有難いことです。これからは村長さんこそ元気で和村を明るくして下さい」と逆に村長を励まし会場を沸かせるシーンも。

各集落公民館では、記念品贈呈にあわせ敬老会やカラオケ大会などを開催。終日、高齢者の笑い声が絶え

ない一日となりました。

村では、地域支えあい活動や元気度アップポイント事業など元気なお年寄りの生きがいづくりを応援しています。いつまでも住みなれたふるさとで家族とともに充実した生活が送れるよう高齢者の皆様の健康とご多幸をお祈り申し上げます。



「地域に根ざした教育」に尽力

故津田得兒氏に叙位叙勲・正六位瑞宝雙光章

5月16日に85歳でお亡くなりになられた津田得兒氏に内閣総理大臣から正六位瑞宝雙光章（せいりくいずいほうそうこうしょう）が贈られ、大和村教育委員会執務室にて泉有智教育長からご親族に伝達されました。

叙位・叙勲とは国家又は公共に対し功労のあった方に対し、その功労に鑑み授与されるものです。津田氏は昭和22年に大和村立名音小学校教諭を皮切りに昭和61年の龍郷町立秋名小学校校長を退職するまでの39年間、大島郡内の小学校及び中学校で勤務し教育一途に誠心誠意邁進しました。

氏は、教諭時代から校長時代まで教育職員として勤務している間、「地域に根ざした教育」を理念に、赴任した地において地域へも積極的に働きかけ、自ら地域活動へも率先して参加。その温厚誠実な人柄で保護者や地域住民から慕われ、地域に根ざした学校として

住民からの理解や協力を得るうえで大きな役割を果たしてきました。

津田氏の残した功績は児童生徒たちはもとより地域の人々の胸に深く刻まれています。生前のご尽力に感謝申し上げるとともに、安らかなるご冥福をお祈り申し上げます。



台風被害からの樹勢回復進まず

平成25年スモモシーズン終了

大和村の初夏の味覚、スモモ（奄美プラム）の2013年シーズンが終了しました。

今期のスモモの集出荷は5月20日から6月13日まで、本村の湯湾釜選果場と今年2月に供用開始した奄美大島選果場（奄美市名瀬朝戸）の2箇所で行われました。

JAあまみがまとめた2013年共販実績によると、取扱量は17.3トン（前年比△25.7トン）、販売額866万2千円（前年比754万2千円）と、量、額ともに過去5年間で最少でした。大和村での実績は、取り扱い量12.0トン（前年比△23トン）、販売額586万1千円（前年比△705万円）と過去最低水準を記録。記録的不作となった要因は、豪雨や台風など度重なる災害で被害を受けた樹勢の回復が進まず着果が少なかったことが考えられます。

村産業振興課では「1980年代に一斉に植えた樹木が経済樹齢末期（20～25年）を迎え老木となっています。スモモは老木ほど回復力が弱く災害のダメージが残っていると思われます。村では大玉系苗木購入の補助を行っており、計画的な改植を推進していきたい」と話しました。



コーソガナシしを迎えて踊る

島のミハチガツ～アラセツ・シバサシ八月踊り～

アラセツ、シバサシ、ダウンガは、「島のミハチガツ（八月三節）」と呼ばれ、コーソガナシ（ご先祖様）をお迎えし、一年の節目を祝う祭り。八月踊りで豊穡への感謝と豊作を願います。

以前はアラセツスカリ（旧暦8月初丙の前日）から3日間とシバサシの3日間、計6日間踊り続けたと聞きますが現在は1、2日程度に縮小して開催していません。また「ヤーマワリ」と称し、集落すべての家々を廻った風習も現在は公民館前など数カ所での踊るのが一般的になりました。八月踊りはチジン（太鼓）に合わせて踊り、男女が交互に唄を掛け合います。曲目や歌詞、踊りの進行など集落毎に異なり興味深くもあります。

余暇のない時代にシマツチュの娯楽として栄えた八月踊りですが、近年は踊り手の高齢化や方言文化の衰退などから伝承が危ぶまれています。

大棚集落（前田清和区長・155世帯）では八月踊

りの伝承に危機感を感じた若者達を中心に八月踊り保存会を結成。集落の高齢者に教を請い定期的に稽古を重ねて唄や踊りをマスターしました。

前田区長は「八月踊りは先祖から受けついで大事な財産です。私たちの世代で途切れることのないよう伝承していきましょう」と力強く語っていました。



ストップ!!交通事故

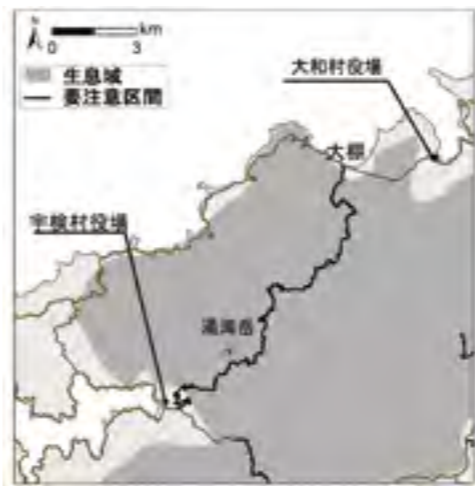
アマミノクロウサギは、世界中で奄美大島と徳之島の森だけに生息している、とても希少な動物です。しかし一方で、毎年多くの個体が交通事故で死亡しているという悲しい現実もあります。「森のたから」をまもるため、ゆっくり走ってくりんしょれ〜!

☆大和村には、アマミノクロウサギが多く生息しています。
☆毎年9月〜12月頃に事故発生数が増加します。

☆地図の要注意区間は事故が起きやすいので、アマミノクロウサギが活動する夜間は注意し、特に林道では時速20キロ以下の運転をお願いします。

※ケガをしたり、死んでいるアマミノクロウサギを発見したら、ご連絡をお願いします

《環境省奄美野生生物保護センター》
電話：0997-55-8620



和光トンネル通行規制

国道58号和光トンネル内において防災訓練を行うため、次のとおり通行規制を行います。つきましては、訓練の目的を御理解いただき、ドライバーの皆様のご協力をお願いします。

なお不明な点がありましたら大島支庁建設課(57-7332)までお問い合わせください。

□日時 平成25年12月3日(火)
午前10時40分〜午前11時40分

□場所 国道58号和光トンネル

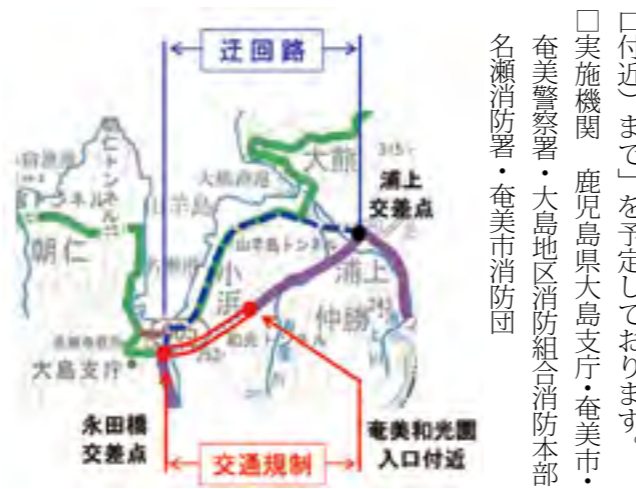
□規制方法 トンネル内全面通行止め

(迂回路あり) ※全面通行止めの区間は「和光トンネルの伊津部町側坑口付近(永田橋交差点)から和光町側坑口付近(奄美和光園入

口付近)まで」を予定しております。

□実施機関 鹿児島県大島支庁・奄美市・奄美警察署・大島地区消防組合消防本部

名瀬消防署・奄美市消防団



11月は不法投棄防止月間です

鹿児島県では、産業廃棄物の不法投棄等の根絶を図るため、毎年11月を「不法投棄防止月間」と定めています。期間中は、不法投棄防止の啓発活動や不法投棄防止パトロール等を強化しています。

不法投棄は重大な犯罪です。この機会に一人ひとりが「不法投棄をしない。させない。見つけたらすぐ電話を」という意識を持ち、不法投棄のない住みよい地域を作りましょう。

産業廃棄物の不法投棄を発見したら、お近くの地域振興局(支庁) 保健福祉環境部または、鹿児島県庁産業廃棄物・リサイクル対策課までご連絡下さい。

□産業廃棄物・リサイクル対策課

電話：099-286-3810

mail: sanpai110@pref.kagoshima.lg.jp

□大島支庁保健福祉部衛生環境課

(名瀬保健所)

電話：0997-52-5411



統合失調症家族教室のご案内

統合失調症患者のご家族を対象に「家族教室」を開催します。家族にできる悪化を防ぐ接し方や本人が利用できる社会資源、立に向けた制度などを紹介します。また、同じ悩みを持つ家族との交流会も計画していますのでぜひご参加下さい。

□対象者 統合失調症患者のご家族

□費用 無料

□会場 大島支庁別館2階会議室

□主催・お申し込み・お問い合わせ 大島支庁地域保健福祉課(名瀬保健所)

担当：吉村・勇

電話：0997-57-7243

※ 希望する回だけの参加も可能です。

※ 講話の後に交流会を開催します。

※ 申し込みいただいた個人情報は今回の家族会のみで利用し外部にお知らせすることはありません。

日 時	内 容
【第1回】 10月25日(金) 14時~16時	①統合失調症ってどんな病気? ②リハビリテーションの大切さについて
【第2回】 11月22日(金) 13時~16時	①地域活動支援センターゆらい施設見学 ②知って役立つ社会資源のお話
【第3回】 12月13日(金) 14時~16時	①家族の接し方・家族にできること ~親亡き後に備えて~

開発基金を利用してみませんか

開発基金とは?

「奄美群島の産業の振興を図るため、その事業に携わるみなさまを金融面でサポートします。」

○農業を営む方

○水産業を営む方

○観光関連に携わっている方

○地域の資源を活かした仕事をしている方

○地域活性化や雇用促進のための事業をしている方

○これから事業を始めたいと考えている方

お気軽にご相談下さい。

□融資業務利率 年1.2%~3.2%

(平成25年6月20日時点参考)

□融資機関 最高15年

□お問い合わせ先

独立行政法人奄美群島振興開発基金
業務課

電話：0997-52-4511

FAX：0997-52-4514

e-mail: kkn@amami.go.jp

HP: http://www.amami.go.jp/



2013年漁業センサスを実施

農林水産省では、平成25年11月1日現在で2013年漁業センサスを実施します。

漁業センサスは、我が国漁業の生産構造及び就業構造並びに漁村及び水産物流通・加工業等の漁業を取りまく実態を明らかにするとともに、我が国の水産行政の推進に必要な基礎資料を整備することを目的として、5年に1度の周期で実施し、今回で13回目となります。

この漁業センサスは、我が国漁業の実態を把握する最も大規模な調査で、実態を反映した正確な統計を作成することが必要です。

10月下旬から調査員が漁業関係者の方々に訪問しますので、調査票に漁業の経営状況などの記入をお願いします。

なお、調査票に記入された事項については、統計以外の目的には使用されませんが、ご協力をお願いします。

□漁業センサスに関するお問合せ先

大和村役場総務企画課(担当：前里)

電話：0997-57-2111

FAX：0997-57-2161



建物の申請手続きをお忘れなく

建物の新築・増築などを計画している皆さまへ。

建物の新築・増築などを行うときは、建築基準法で「工事に着手する前に、その計画が建築基準関係規定に適合するものであることについて、確認の申請書を提出して確認済証の交付を受けなければならない」と定められています(違反した場合、罰則が適用される場合もあります)。

建物の新築・増築などの計画があるときには、申請手続きが必要な建物であるかを確認の上、必要な場合は必ず申請していただくようお願いいたします。

申請手続きが必要でないか解らないときなどは、お知り合いの建築士、工務店、または下記までお気軽にお問い合わせ下さい。

※参考 建築基準法 第6条第1項

□問い合わせ先

大和村役場建設課

電話：0997-57-2142

鹿児島県大島支庁建設課建築係

電話：0997-57-7344



自衛官候補生(男子)2次募集

自衛隊は陸・海・空と活躍するフィールドは様々。そこにはそれぞれ十数種類の職種が見つかります。「きつと自分にあった仕事が見つかる!」自衛隊は自分探しの旅にきつと答えを出してくれる職場です。是非その世界をのぞいてみてください。

□募集種目

自衛官候補生(任期制) 男子

□応募資格

18歳以上27歳未満の者

□受付期間

平成25年10月5日~平成25年12月6日

□試験期日

平成25年12月14日・15日のうち指定日

□試験科目

筆記試験、口述試験、適性検査及び身体検査

□問い合わせ先

自衛隊鹿児島地方協力本部奄美大島駐在員事務所

住所：奄美市名瀬永田町17-3

大島支庁別館2階

電話：0997-53-9103



奄美フォレストポリス

おまみのわくわくせぜん・ワンダーランド

(HP) <http://www.amamiforest.com/> (FB) <https://www.facebook.com/amamiforest> (blog) <http://amamiforest.amamin.jp/>

ホームページ・ブログ・フェイスブックにて情報を更新中



あきぬいゆ 秋の魚のピザ

カジキマグロと季節野菜のピザ

《材料》
 カジキマグロ・鮭(またはサンマ)・エリンギ・マイタケ・ブナシメジ・カボチャ・パプリカ・ピーマン・タマネギ・四角マメ

《調味料》
 トマトソース・チーズ・塩

《調理法》

- ① ピザ生地代わりのカジキマグロは2〜3ミリの厚さで10センチ大にカットし軽く炒める
- ② パプリカ・ピーマン・タマネギは薄くスライスしておく
- ③ 鮭など材料を軽く炒めておく
- ④ 四角マメはゆでておく
- ⑤ カボチャ・キノコ類はオリーブ油で炒める
- ⑥ 炒めておいたカジキマグロの上にトマトソースを塗り炒めたキノコ類、鮭を盛りその上にスライスしたタマネギ、パプリカ、ピーマンを散らし、チーズをかけオーブンで焼く

「あきぬいゆ(カジキマグロ)は子どもの頃におっかん(お母さん)が砂糖醤油で厚揚げと甘辛く煮込んでくれたなあ。あの頃は漁師も多く、今より食材が豊富だったんじゃないかな。そう懐かしそうに話してくれたのは当連載料理人の森山修二シェフ(居酒屋『いっさこれ』料理長)。地域や季節の食材には人それぞれの思い出があり、食事にアクセントを添えてくれます。

カジキマグロはスズキ目カジキ亜目の大型の魚。夏から秋にかけて奄美大島近海、トビイカ漁で混獲されるのは大きな背びれが特徴のバシヨウカジキ。マグロ類に比べしっかりとした歯ごたえがあり、刺身のほか、煮物やソテーにして食卓にのびります。

今回は秋の味覚をイタリアンにと、あきぬいゆのソテーをピザ生地に仕立て地場産野菜をトッピング。身が締まった「生地」にトマトソースが絡んだ絶品ピザに仕上げました。

撮影を終え一口ほおばると、古き良き時代の大和浜の光景と真っ黒に日焼けした森山少年の笑顔が浮かぶような錯覚を憶えました。

今月の題字

- (ま) 名音小学校5年 重田 優衣さん
 (ま) 名音小学校5年 川畑 香慧美さん
 (や) 名音小学校5年 勝えりいさん

名音小学校は児童数7名の小規模校ですが日頃から美術や習字等の芸術活動に積極的に取り組んでいます。今月の題字は5年生の3人に一文字ずつ書いていただきました。それぞれの字の美しさもさることながら雰囲気やバランスがそろっており3人の仲の良さがうかがえる作品に仕上がりました。作品を持つ笑顔も素敵な仲良しトリオですね。

こせきの窓

人口 1,646人 (△45)
 男 798人 (△13)
 女 848人 (△32)
 世帯 876戸 (△15)

9月1日現在
 (前年同月比)

大好きなこのか姉ちゃんといっしょに「はいチーズ!」



重田 浩輔さん
 保護者・重田 茂広さん (名音)

島の宝

満1歳おめでとう

ご結婚おめでとう

森山 智史さん (今里)
 山田 優子さん (奄美市)

ご誕生おめでとう

勝 遙也さん (勝栄一朗・名音)
 上間 悠介さん (上間蔵生・思勝)
 森岡 ミコさん (森岡豊史・今里)

お悔やみ申し上げます

平山 エチ 様 (95歳・思勝)
 奥田 直子 様 (83歳・大柵)
 川端フミエ 様 (93歳・大和の園)
 武山 ヤス 様 (94歳・大和の園)
 南 セツ子 様 (65歳・大和浜)

香典返し(社会福祉協議会へ)

三田富喜子 様 (故平山エチ様)
 奥田 実彦 様 (故奥田直子様)
 南 貞光 様 (故南セツ子様)

ふるさと納税ありがとうございます

児玉 初子 様 (霧島市)
 小田 樹信 様 (千葉県)
 福原 輝義 様 (埼玉県)
 川畑 裕子 様 (神奈川県)
 山田 末廣 様 (愛知県)

広報誌謝礼ありがとうございます

安田 守 様 (始良市)



野山の

サガリバナは

サガリバナ科の

熱帯性常緑高木。

日本では奄美大島が

北限でマンングロープや

川沿いの湿地に自生しています。湿った場所で藤のように垂れ下がる花を咲かせることから別名「サワフジ（沢藤）」とも呼ばれ、観賞用として庭先や生け垣にも植栽されています。

サガリバナ（下がり花）はその名のとおりに、垂れ下がった枝に房状のつぼみを付け、白色から淡紅色の花を咲かせます。いくつも垂れ下がる房はまるで「花のシャンデリア」。南方系特有の煌びやかな彩を見せます。

開花時期は7月から8月頃で、夜になるとバナのような甘い芳香を放ちながら咲きます。香りでおびき寄せた虫たちによって受粉すると花びら（雄しべ）は夜明けとともに落花してしまします。煌びやかな花を咲かせながらも一夜限りで散るサガリバナはなんとも儂い花です。



一夜限りの儂い花 サガリバナ

湯湾釜集落にお住まいのMTさんもサガリバナに魅せられたお一人。園芸好きが高じてサガリバナの種から苗を作り、今では高さ3メートルほどの大きさに育てました（画像左）。

最盛期を迎えたMTさん宅のサガリバナですが、開花が始まると虫以外にもいろんな生物が集まってきました。それを知るMTさんはサガリバナをライトアップし、周りにはイスやテーブル



をセツト。さらにはクーラーボックスに冷たいビールを用意するほどの気配り様。日が落ちると庭先は集落民の社交場の様相を呈し、「今年の開花は一段と・・・」とサガリバナ談義に花を咲かせ一日の出来事を語りあいます。

サガリバナの花言葉をひも解くと「幸福が訪れる」とありました。毎年のサガリバナの開花とともに湯湾釜集落にもきつと幸福が訪れることでしょう。



7月22日湯湾釜集落MTさん宅のサガリバナ（イメージ）



←バーコード読み取り機能付き携帯電話をご利用の方はここから大和村ホームページ携帯サイトへ簡単にアクセスできます。それ以外の方は直接URLを入力してアクセスしてください。
(<http://www.vill.yamato.lg.jp/i/>)

発行・編集 大和村役場総務企画課
〒894-3192 鹿児島県大島郡大和村大和浜 100 番地
TEL 0997-57-2111 FAX 0997-57-2161
mail:info@vill.yamato.lg.jp
<http://www.vill.yamato.lg.jp>